# できたぞ!!ぼくらの学校が

## 白根高校　心はずます一年生

県立白根高校の新校舎が九月十九日に完成し十月一日新校舎へ引っ越しました。白根地区、菱ノ口に建てられた高校は田園の中に渋いタマゴ色のモダンな容姿をたたえています。第二期工事も引き続き始められており、来年の三月には完成する予定です。

完成した新校舎は鉄筋三階延べ約一千五百平方㍍で、一階は会議室、校長室、事務室など、二階、三階は特別教室二、普通教室八で合わせて十教室で、教室の窓側には一・五㍍幅のベランダが取り付けられた近代的なもので、チョット豪華な団地アパートのような外観です。一階の廊下は白く光る人造石張りで、階段もスマートにできており、一流ホテルのロビーをおもわせるデラックスな建築です。しかも越後平野の真ん中に建てられた校舎だけに教育環境は申し分なく、三階の教室からは、広大な越後平野のかなたに磐越の連峰を望み、西に弥彦、角田山が秋の日にかすんで見える素晴らしいながめ。

放送設備は五十万円をかけて、各室にスピーカーが備えつけられており、始、終業の合図は石山賢吉氏の寄贈になるオルゴール・チャイムでと〝ぼくらのまなびや〟は田園の風物にマッチした詩情もただよっているのです。

新入学以来六ヵ月、白根小学校の仮校舎で、間借り授業を続けてきた二百人の生徒は、新校舎での生活が始まって高校生活もやっと軌道に乗った感じですが、まだ体育館ができないため、体育の授業は一、五キロの道を歩いて白根小、中学校まで出張、これから冬に向かうというのに生徒もかわいそうです。

現在電車、バスの通学生は六十名、高校から駅まで二キロ余り、歩いてタップリ二十分はかかるのですから、通学生専用のバスが欲しいところ。学校ではこれら通学生のため、始業時間をわざわざ十五分も遅らせて便宜をはかっているのです。

とにかく通学生にとって一日も早く駅―高校のバスが走ってもらいたいことでしょう。

× ×

第二期工事は引き続き始まっており、来年の三月に完成の予定です。そして第三期工事に体育館が建てられることになるわけです。

屋外運動場も未整地のところが多く、ゆりかごの中の高校ではどうしようもないようです。しかし三万三千平方㍍の敷地があるのですから整備されれば素晴らしいグラウンドになるとおもわれます。

新校舎へ……足どりも軽く

# 秋の子ども写生大会

## ―千三百人が参加―

白根市教育振興会と蒼穹（そうきゅう）会の主催で、秋の写生大会が九月二十四日各校から集まった千三百人のよい子たちによって開かれました。子どもたちは、秋分の日と絶好の写生びよりに恵まれて楽しくクレヨンを走らせていました。

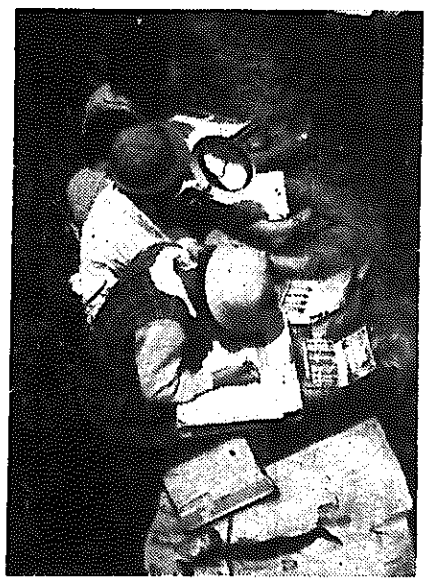
作品は九人の先生により審査されましたが、作品に差がなく特選を決めるのに苦心したと先生たちをよろこばせていました。

特選受賞者は次のとおりです。

◇小学生の部
●一年生　白根＝みやじまさる、伊藤新、よしかわかおる、おおつかひとし●二年生　白根＝吉田勇一、狩谷国之、庄瀬＝星正文、星かずよし、白根＝石口幸夫、木村幸雄、鈴木茂之●四年生　白根＝吉川ひろし、大谷秀子、庄瀬＝後藤修、臼井＝田村弘●五年生　鷲巻＝池端豊、村松文和、茨曽根＝田村恵子、白根＝富井洋、今井信介●六年生　戸頭＝細貝一郎、白根＝木村一規、内藤道代、坂上典子、須藤藤男

◇中学生の部
●一年生　白根＝吉田一郎、西方一幸、中島護●二年生　白根＝桜井寛、長谷悟、徳武明●三年生　白根＝福島秋一、金塚道雄、白根昭男、船岡三男、大橋一男、茨曽根＝長崎豊子

入賞者は小学生の部　戸頭＝たけだひろし　中学の部　新飯田＝渡辺堅二郎以下四百四人


楽しく鐘を走らせる子どもたち

# 農地取得資金の利用を

## 申し込みは農委事務局へ

自作農維持創設資金融通法の中から農地取得資金が切り離され、農林漁業経営構造改善資金融通制度により取り扱われることになりました。

これにより農地取得に必要な資金の対象は次のとおりです。

①貸し付け対象＝農業経営の改善のためにする農地の取得で、農業を営む個人または農業生産法人

②申し込み場所＝農業委員会事務局へ

③貸し付け限度額＝個人八十万円、農業生産法人三百万円ただし法人で二つ以上の世帯にある場合は、八十万円に世帯数を乗じた額と、三百万円のいづれか低い額で自己調達資金を控除した額の一〇〇％

④貸し付け期間、および利率＝二十二年以内で償還可能な最短期間。利率は一般で四分五厘、構造改善は四分です。なお利率四分の場合は知事の認定を受けなければなりません。

⑤保証人および担保＝保証人か担保のいずれかがいり担保の場合は借り受け人の所有する農地のこと。

なお融資を受ける人は貸し付け認定申請書と農業経営改善計画を農業委員会を経由して知事に提出します

詳しいことは農業委員会事務局へおたずねください

# 新生活運動推進指定地区 大郷地区が選ばれる

昭和三十八年度、新生活運動推進指定地区に大郷地区が選ばれました。大郷地区では、公民館、婦人団体、農協関係者などが一体となって、地域ぐるみの運動を展開しています。

この運動は、わたくしたちの生活を明るく豊かに文化的にするもので、生活の中から問題を取りあげ学習、話し合いなど実践活動を積み重ねて行きます。

地区婦人会では、部落嘱託員や分館運営委員などに働きかけ①親切運動②家庭環境の整備③環境衛生の改善と実践問題にとりくんでいます。

また組織の力をもって「地域ぐるみ」「町ぐるみ」と総合的な成果をあげようと意気ごんでいます。

# 国民年金の出張徴収

国民年金保険料の出張徴収を次の日程で開きますから、ご利用ください。

10月17日●午前九時～十二時まで　茨曽根、臼井、鷲巻駐在室●午前十時～午後三時まで　庄瀬駐在室●午後一時～午後四時まで　新飯田、大郷、根岸駐在室

10月18日●午後一時～午後四時まで　小林駐在室、白根四ツ興野保育園

# ひろがる即時通話網

## ―東京、長岡、高田も―

日本電信電話公社では、即時通話拡張工事が完成し、九月二十九日から東京、長岡、柏崎、高田、直江津もダイヤル即時通話になりました。

ダイヤル即時市外通話は、みなさんの手で相手方を呼んでいただくものです。

白根からのダイヤル即時市外通話網は次のようになりました。

新潟＝〇二五二、亀田＝〇二五二（八一）、村上＝〇二五四五二、新発田＝〇二五四二二、五泉＝〇二五三四、村松＝〇二五三五、燕＝〇二五六六二、長岡＝〇二五八二、柏崎＝〇二五七二二、直江津＝〇二五五四二、高田＝〇二五五二三、東京＝〇三、大野町＝〇二五二〇一、酒屋＝〇二五二〇三

なお大野町、酒屋は市外局番をダイヤルし、相手局の交換手がでたら、相手番号をいってください。またダイヤル即時通話で、通話料金を知りたいときは、直接ダイヤルをせず、一〇〇番へ申し込みください。

# 市民体育祭にこぞって参加

スポーツの秋をむかえ市体育協会では、十月を白根市民体育祭の期間として各種体育大会を開きますから、市民のみなさんのご参加をお待ちしています。

◇十月十九日～二十日市民登山＝塩沢町巻機山◇二十日市民卓球大会＝白根中学校◇二十日市民サイクリング大会＝護摩堂山

# 編集後記

◆秋の夜空は美しい。夜ふけてオリオンを東天に仰ぐと、冬も近いとしみじみとおもう◆ことしも史上二番目の豊作とあって農家の表情も明るい◆広報に原稿を寄せてくださる人たちにはいつもながら頭がさがります◆広報の発行は毎月一日ですが今月号は定例市議会、役所人事など原稿が間に合わずおくれてしまいました。広報の庁隅で編集子、深くお詫び申しあげます。

# 白根市縦断

島国日本――狭い国土の中で人間がひしめき合って超満員。しかも六百十二万二千㌶の農地で九千四百万人の台所をまかなわなければならないのだから、農林省も頭が痛い。さればこそ、日本的に最少の土地で最大の収穫を上げる科学的な農法を研究し、戦時中は国民の食糧の確保に、戦後は外米の輸入を少しでも押えドルの消費を減らそうというわけです。

さて、ここで登場する暗きょ排水も、食糧増産自給化を目標に昭和十六年、県下のトップを切って白根で試験的に施工し翌十七年から県営で本格的に実施されたもの。労資の不足の悪条件をしのいで、とにかく昭和二十二年の事業打ち切りまで約二千㌶の暗きょを施工しました。この総工費二百余万円、そして、昭和二十六年積寒法等により土地改良の補助が復活し、この補助をうけて暗きょ工事を開始、三十二年までに一千四百㌶が暗きょを終わり（この工費約一千五百万円――推定）白根市の水田の七〇％が暗きょを実施したことになりました。

湿田から乾田へ、そして農薬、肥料の進歩、品種の改良や耕うん機をはじめ各種機械の発展により農業生産力はいちじるしく増大しました。

乾田化された白根市の田地に裏作が可能となり、裏作が最大に行なわれた昭和二十六年で全田地の十一％でありました。しかし、三十年には七

# 暗きょ排水と裏作

暗きょ工事の掘さく作業

％、三十七年には一〇、〇〇五％と急激に減少しています。

この裏作不振の原因には水稲栽培の早期化による障害、裏作作物の価格不利――たとえば小麦では反収一万四千五百円――単作の習慣、経営面積の大きいこと、対税金関係などが数えられます。

新津、北蒲の各地では、レンゲ、菜種等の肥飼料、作物の栽培によって相当の効果をあげています。白根においても暗きょ実施後の農業経営の課題はこの辺にあるのではないでしょうか。

乳価の不安定、低収益により乳牛の飼育が不利たれば、中・小家畜を飼育するとか、家畜と有機的に結びつけた裏作――水稲――裏作（飼料）――畜産（肥料）――水稲――にもっと意欲的になってはどうでしょうか。

暗きょが水田のみでなく、畑地や果樹地帯にも行なわれています。とくに、果樹地帯の暗きょは品質を向上させ、収穫も二、三割増という成績でなかなかの好評。

いずれにせよ、暗きょにより湿田から乾田へとなったとはいえ、これらの長所を農業経営の中に生かすことが大切なのではないでしょうか。

◎　◎　◎